

# 岸の上遺跡 遺構配置図 (古代)



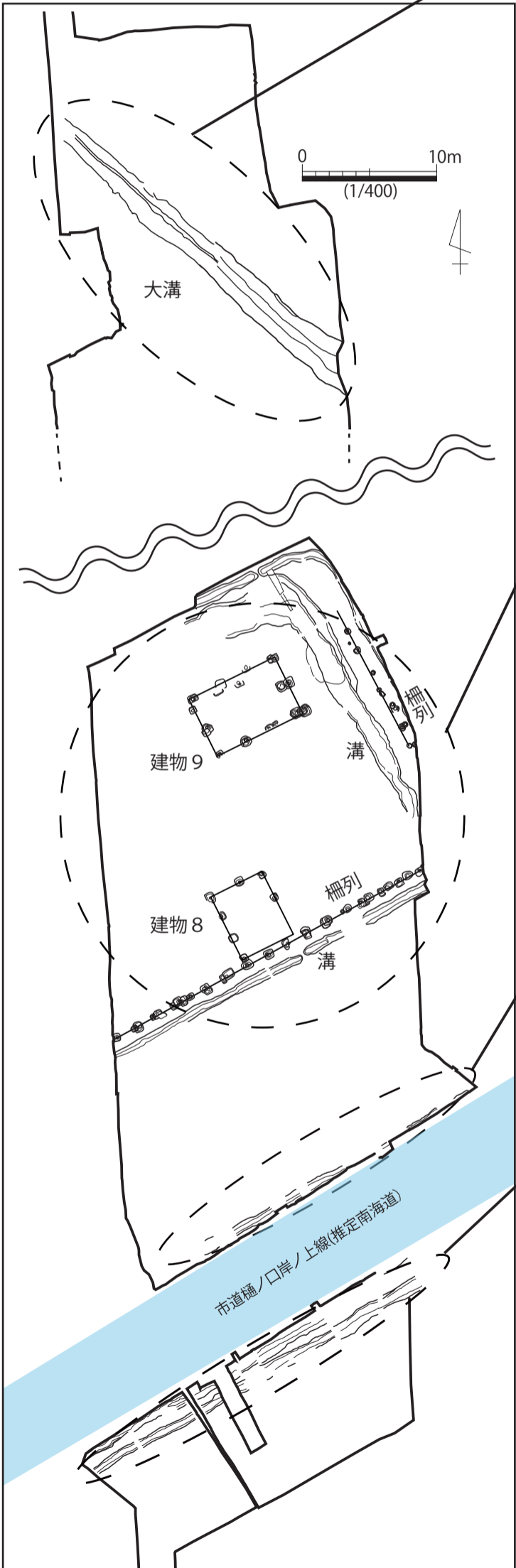
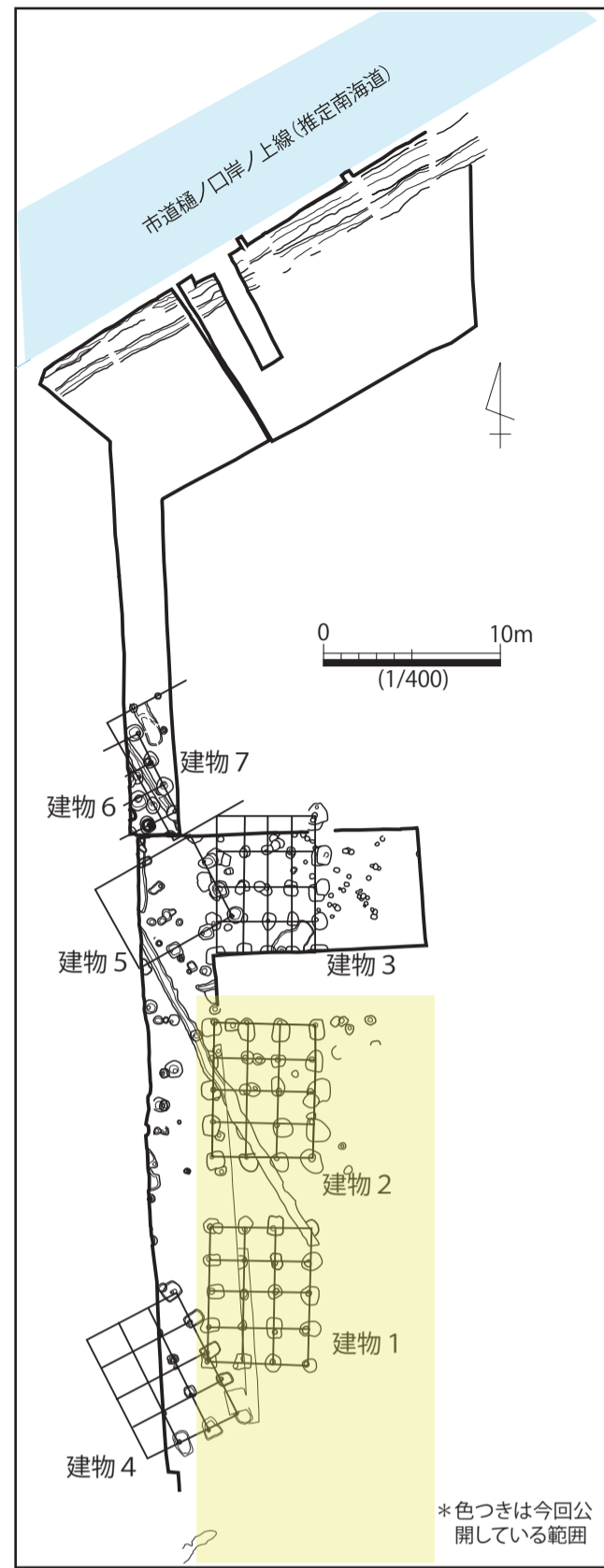
**大溝**  
遺跡を横切る大溝。奈良時代の齋串(木製の祭祀具)が出土しており、かつては水が流れていたと考えられる。



**区画施設を持つ建物群(奈良時代後期～平安時代前期)**  
南海道に北面する建物群。溝と柵列により明確に区画されている。



**道路側溝**  
現道の両脇を走る道路側溝。調査では数度にわたり掘り直しが行われたことが明らかとなった。



**南北軸の建物群**  
南北に整然と柱筋を揃えた三棟の建物。面積は約43㎡。手前の2棟は桁間が4間、梁間が3間という構造も一致している。

**条里方向の建物群(奈良時代前半)**  
丸亀平野の条里に沿うように軸を30°西に傾ける建物。写真左下の建物については南北軸の建物と規模・構造が共通する。

